

平成22年度終了プロジェクト研究成果ダイジェスト

【研究代表者名：川島 啓二】

研究課題名	FDプログラムの構築支援とFDerの能力開発に関する研究
実施期間	平成20～22年度
最終的な達成目標	多様なFDプログラムの体系化・構造化（FDマップの開発）と、FDプログラム作成の際に準拠すべき、大学教員としての基本的な要件枠組みの提示を通して、各大学がFDプログラムを構築する際のサポートとなる知見を体系化する。それに加え、FDの企画・運営を担当するFDer（ファカルティ・ディベロッパー）に必要とされる能力とは何であり、それが効果的に展開される条件等を明らかにする。
研究の方法	<p>大学教職員の職能開発（FD）については、大学教育改善のための重要なトピックであり、FDスタッフの養成、FD・SDのパイロットプログラム開発が改革の具体的方策の例としてあげられてきたが、FDスタッフ養成やプログラム開発のためのノウハウを持ち合わせている機関は極めて少ない。</p> <p>本研究は、FDのための準拠的なプログラム開発やファカルティ・ディベロッパー（FDスタッフ）養成の在り方を、ファカルティ・ディベロッパーとして期待されている大学教育センター等の教職員を共同研究者として、FDプログラムの開発をワークショップ形式で開発・作成、そして試行的に実践し、ファカルティ・ディベロッパーの養成とFDプログラムのパイロット開発を共に推進しようとする開発的研究である。</p>
主な事実発見	<p>本研究は、大学教育改善にとって実際に有用なツールやプログラムを試行的に開発し、実践に供することによって更なるその改善を図っていこうとするもので、調査や分析によって新しい事実を発見しようとするものではない。</p> <p>本研究によって開発された『大学・短大でFDを担当する人のためのFDマップ』は、各大学のFDプログラムの特徴を可視化し、また、それぞれのFDプログラムが求める教育能力を体系化しているの、FDプログラムの診断・開発ツールとしてだけではなく、大学教員のキャリア開発支援ツールとしても活用できる。日本の大学のFDプログラムそのものはミクロレベルに偏っている傾向があることが確認できたが、一方で、FDマップを大学教育センターの組織開発デザインや組織評価に活用しようとする例（つまりマクロレベル）も見られた。『大学における新任教員研修のための基準枠組』は新任教員に求められる教育能力の要素を抽出したもので、それを基準として、各大学でFDプログラムを構築することを促すためのツールである。大学教育学会のワークショップで試みに実践したが、開発支援ツールとその活用というコンセプトを提示・実践したのは であると思われる。</p>
教育政策への貢献	<p>先の中教審大学分科会（1月31日）の締めくくりは、分科会長による「大学の先生方の教え方を変えさせる具体策が必要である」との言葉であった。本研究プロジェクトの目的は、正にこのような「具体策」についての開発をめざすものであったといってよい。この間の大学教育改革の中で、大学のあるべき姿（ヴィジョン）やそのための方向性は提起されてきた。しかしながら、すぐに実践に応用できるようなモデルが提示されるわけではなく、大学側も、FDのあり方や新しい教授法を客観的知識として得ることはできても、それをどのようにして大学教員に身に付けてもらうか、具体的な方法を持っているわけではなかった。本研究の成果である「FDマップ」と「基準」はそのような具体的方法の例であり、大学教育改善のための政策を実践の場に落とし込み、その普及や検証に有用であるという点で、教育政策に貢献している。看護学教育における共同利用拠点に認定されている千葉大学看護実践研究指導センターのプロジェクト「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」（平成23～27年度）において、「FDマップ」がベースとして採用され、京都地区18大学・短期大学による戦略的大学連携支援事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」においても、「基準枠組み」をベースとした取組が展開された。本研究のようなモデル開発の取組が、高等教育政策の推進という観点から、有効であることが確認されたと考えられる。</p>